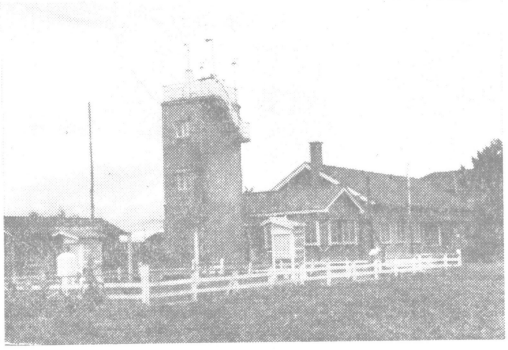
地方だより

△……帯広測候所……△



帯広測候所全景

去る日，東京のある所から依頼を受け気象資料を送ったところ，受けとった知らせと共に，全く同じ資料を再び依頼されて大いにめんくらったが，後日その言い訳に余りの酷い暑さに云々と書かれてあった．誠に羨やましいやらお気の毒やらで，まず本州各地の皆様に残暑御見舞申上げたい．

真夏の太陽から全く見放されたかの如く，今年の夏の北海道特に東側の天候は例年に較べてよくない．この春の天候は，冬の終りに予想されていた冷夏の懸念をも忘れさせるかのような高温多照で，5月平均気温は当所創立以来64年間の第1位を記録し，また乾燥甚だしく時々強風に見舞われ，各所で火事騒ぎが頻りであったが，農作の方は一部早害を除き一応順調な経過を辿ったかに見えた．ところが，6月半ば頃から俄然気温の下降が目立つようになり，既に8月も終りを告げようというのに，どうにか夏らしい思いをしたという日はほんの数日に過ぎず，冷涼な曇天の日が多く時々雨もあり，7月の日照時間は少いことにおいて創立以来の第1位の記録となった．

こうした天候のため，亜麻，甜菜などの特用作物や麦類，燕麦などを除き，当地方の主要作物たる豆類，雑穀，馬鈴薯，水稲などの作況は甚だ悪く，例え今後の天候が或程度回復したとしても，収獲は平年作を大きく下廻る

効外の並木路落葉松の並木で，直線で十数粁にも及ぶ

見通しが非常に濃くなって来た．それと同時に，農家の焦慮の色は日増しに濃くなり，帯広における気温の毎日の変化は雑穀の相場に敏感にひびいて，東京方面から電話で直接資料を聞いて来る業者も少くない．

何といっても十勝は農業の国である．畑作を主とし，18万町歩といわれる耕地の約6割は豆畑である．いつ誰が耕作するとも知れない人影のない広大な耕地，それを一町四方毎に規則正しく仕切る落葉松の耕地防風林の美観は十勝独特の眺めであろう．したがって，ここにおける我々の仕事も農業方面への協力が甚だ多い．ここでは当所が中心となり管内各町村，農事試験場，農業改良相談所などの指導機関をはじめとし農業協同組合，青年団体，一般農家などを包含した気象同好会の組織があって，機関誌を発行したり，また色々な会合など行ってい

広大な小豆畑一戸当り平均十町歩位は耕作している

る．本年の不良な作柄からみれば，やがて管内各地でサイレンや半鐘が鳴りひびき，大がかりな防霜体制の布かれる日も間近いであろう．

終りに，十勝の風土について御紹介致しておきたい．大雪山系，日高山脈，阿寒山塊などの山々によって北，西，東の三方を囲まれ，その中に広大な十勝平野が拡がっている．北海道の屋根十勝岳に源を発しこの平野を貫き南東に流れて太平洋に注ぐ十勝川，この川の中流，音更，札内の諸川の相会するところに街並の整然とした帯広の町がたっている．その昔十勝の原始林に開拓の斧が振われてから漸く70年余，産業，教育，文化の中心地として帯広の町は発展の一路を辿った．人口7万5千，近隣を合併して10万を超える日も間近い．

帯広は観光北海道の一つの中心地でもある．市の郊外にある平原の湯の里十勝川温泉をはじめとし，北東にあたり永い間の沈黙を破って噴煙をあげる雌阿寒岳を含んで山と湖水の阿寒国立公園，北方には電源開発によって新たに生れた糠平の人造湖と温泉や然別湖とその温泉，さては十勝の平原を一望に収める狩勝峠景観や断崖絶壁の下を縫うて日高に通ずる海岸道路など紹介すべきものが多い．これらは帯広を中心とした快適な観光バスによってつながられている．

短かい夏らしからぬ夏もいつしか送って，ひんやりとした夜の町辻に玉蜀黍を焼く匂の流れる今日此頃である．やがて迎える冬の寒さにこそ十勝の紹介すべき事も多いと思われるのだが，次の機会にゆずり，編集者の求めに応じて北の国の夏だよりを送る．　（瀬川忠四郎）

（写真撮影　天谷政雄）